

## 事業報告書

日時	令和4年8月27日(土) 14:00~16:00
目的	男性が家事・育児に参画することで、男性自身が多様な視点で世の中を見ることができるようになる、家族の絆が深まる、女性が社会に参画していくためのハードルが低くなる等々の意義があることの理解が広まり、育児を楽しみ積極的に係わる「イクメン」という言葉も浸透している。 一方で、「子どもと、もっと仲良くなりたいのにどうしたら良いかわからない」、「不安を感じるなどで大泣きしている子どもへの対応時に母親には敵わないと感じる」といった声も聞かれることから、今回の講座では、自身も子育てをしながら教鞭をとる講師から子どもの発達及びアタッチメント理論についてわかりやすく学ぶことをきっかけとして、子どもとのより良い関係づくりをめざす。(沖縄県第6次男女共同参画計画「DEIGOプラン」4-2-49)
対象	子どもと、もっと仲良くなりたいパパ、関心のある方
講師	中尾 達馬氏 (琉球大学 教育学部 准教授)
会場	ているる3F 研修室1・2
参加者数	11名
講演内容 (概要)	<p>講師は、最初に受講者の子どもの年齢を確認し、「性格がある程度固まるのは10歳くらい。アタッチメントの原理原則は10歳以上にもあてはまるが、思春期の問題などが入ってくるため、今日は10歳未満の子どもを中心として話す」として、父親としての自身の経験、映像資料、自叙伝などを紹介しながら講話を行った。</p> <p><b>【理論編】</b> アタッチメントは「きずな」にたとえられる。子どもは不安や恐れを感じた時に人にくっつく傾向があり、その時、大人がしっかり受け止めて送り出すことを何度もくりかえすことで信頼関係が生まれアタッチメントが形成されること、アタッチメントは不安や恐れを感じた時の子どものマイナス感情をニュートラルに戻すこと、土日に子どもと遊ぶことは妻のためにはなるがアタッチメント理論上ではきずなを深めることにはならないことなどを紹介した。</p> <p><b>【実践編】</b> 講師は、子どもの取り扱い説明書とも言われる「安心感の輪」のイメージ図を解説。子どもの欲求に目を向けてよりそうことが大切であるが、図の上半分と、下半分どちらかが苦手であったり、寄り添うことが苦手な感情がある場合にはうまくいかないこともある。自分の中に「シャークミュージック」が流れていることに気づいた場合は、数秒間待つことが大切と述べた。 子どもの発達において父親は独自の役割を果たすと言われた時期もあるが、現在は男性役割が以前とは変わっている。「父親だからできること」はないが、父親が育児参画することが子どもの発達に良い影響を与えると説明した。 育児はほどよいが良く、完璧でない方が良い。大切なことは正しいか正しくないではなく、失敗した時に立ち止まって考えること。立ち止まって考えることは「選択肢が増える」ことであると、選択肢を増やすことで、違う道を選べる様になると述べた。</p> <p>講師は、10歳以上の子どもに接する際の具体的な提言等を記載した補足資料も提供し、また受講者から寄せられた多数の質問カード1件1件に丁寧に答えたことで、受講者はアタッチメントに関する理解をより深めていた。</p>
参加者の声	(自由記載欄より抜粋) ・実践的な内容が多くわかりやすかったです！理論的な話も聞きたくなりました！ ・力を抜くことをお伝えしているということが印象的でした。 ・感情に合わせて行動(寄り添う)する度合いがわかった。 ・男性受講者中心の話し方が良かった。
写真	 <p>中尾 達馬氏</p>  <p>講座風景</p>  <p>講座風景</p>
主催等	主催：沖縄県、(公財)おきなわ女性財団